

頼られること、頑張ってるね！

といわれることで、また頑張れます！

## ゼブラ株式会社

(筆記具製造業/野木町)

【雇用障害者数】13名(野木町)

清掃作業等を行うMさん(知的障害)について、  
管理部副部長の松浦さんにお伺いしました。



### 【採用・雇用のきっかけ】

ゼブラでは、しょうがい者の方の特性を活かせる作業が発生した場合、しょうがい者の就労を支援する事業所(就労移行支援、A型、B型就労継続支援事業所など)に問い合わせ、雇用対象者を募っています。

Mさんの場合、作業員を要望していたチップ課の業務に床掃除、廃材処理などがあり、Mさんはこれに類似した作業訓練の経験があることで実習、雇用へとつながりました。

現在の担当は、種々の清掃作業、切り粉(チップを製造する際に出る金属の細かい廃材)の回収、廃油処理(廃油をドラム缶に移し所定の位置に運ぶ)などです。

### 【雇用に際しての取組】

#### ● アプローチ1 しょうがい者雇用に関する社内への理解・周知徹底、作業内容

しょうがい者雇用の窓口である管理部が現場に対し、

- (1) これから就業するしょうがい者の特性説明
- (2) 何か問題が生じた場合、管理部へ相談すること

の2点の周知徹底を図っています。

#### ● アプローチ2 職場体験実習から採用へ

チップ課が必要としていた業務で実習を行い、その結果を判断し採用としました。

頼られることが本人の励みとなっていたようで、周囲では「仕事ができるときは褒める…信頼を寄せる…任せる」という流れができあがっていました。

採用後と実習時との比較でも本人の姿勢に大きな変化はなく、業務量を徐々に増やしながらか、その後9年間という長期の職場定着につながっていきました。

### ● アプローチ3 支援機関とのつながり

本人が在籍していた障害者就労支援事業所には、問題が発生する度に相談をしています。現在は精神的にも安定しています。また私生活の面では、障害者就業・生活支援センターにも相談しています。

#### 【職場定着のための配慮・工夫など】

～コミュニケーションを取る、厳しさ、目配り～

(1) しょうがい者への配慮としては、

- ・コミュニケーションを良くとること、話を聴くことを心掛けています。
- ・忠告することがあった場合、本人の理解や納得を促すため具体的な例を出しながら、「逆の立場ならどう思うか」というような注意喚起した教育を行っています。
- ・「ここは職場であって、施設ではない」ことを明確に伝え、働くことの厳しさを意識付けています。

(2) 現場、従業員への配慮としては、

- ・しょうがい者との関わりの中での困りごとは、どんな些細なことでも管理部へ相談できるような環境づくりを行っています。(一方の話だけを聞き肩入れするのではなく、双方に目配せし、常に協調を心掛け、実行しています。)

#### 【現状と今後の課題】

～作業の効率化への対応と調和～

しょうがい者の特性を活かせる業務が機械化、オートメーション化により減少しています。効率化、コスト削減という視点で捉えた場合は企業として好ましいことですが、しょうがい者雇用・法定雇用率・企業の社会貢献等の観点からすると、このことへの対応策が見つかりません。この問題を解決し、しょうがい者雇用との調和を計っていくことが今後の課題となります。

一方Mさんについては、入社当初と比較するとできる業務や任せられることが多くなり、それに伴い業務量も増加しています。このことから、本人の業務に対する真剣さや能力の高さがうかがえますので、この後は私生活でも自律できるようになってほしい、というのが本人への課題となります。例えば、親元を離れ自活しなければならない時期が来たとき、自分をコントロールし、一人でもやっていけるように成長してもらいたいと思っています。



【Mさん（20代男性）へのインタビュー】

Q. 現在はどんな仕事をしていますか？

A. ①オイルパンの清掃 ②切り粉の回収 ③キャスター清掃 ④床清掃 ⑤チップ（ペン先）の袋詰め ⑥安全確認（消火器周囲および非常口点検、火災報知機の確認等）など。

（床清掃は1日3回、安全確認は3箇所を担当しチェック表で管理。他にも2S【整理・整頓】活動でごみ分別も担当、15業務がルーティン作業となっています。）

Q. 現在の仕事や今の職場はどうですか？

A. 仕事は大変ですが、一人で任され仕事をするのにやりがいを感じています。

Q. 将来の目標はありますか？

A. 40歳を超えたら北海道、京都、大阪、神戸など、一人旅がしたいと思っています。旅行地理検定も受けてみたいと思っています。

【取材を終えて～取材担当者コラム】

○Mさんについて

携わっている業務に対しての責任感の強さ、仕事へのプライドが感じ取れます。

任されることでやりがいを感じ、それを励みに毎日頑張っていることが、本人の言葉の端々に表れているように思われます。また、仕事への真剣さが伝わる一方、月に一度は横浜や千葉などに行って楽しむなど、人生を楽しもうとする姿勢も垣間見えました。



廃材運搬作業



○企業（管理部副部長 松浦さん）について

管理部では常時、連絡相談できる環境を作り、各部署から連絡が入る都度対応し、しょうがい者の方と丹念にコミュニケーションを重ね解決に向け取り組んでいます。このような積み重ねがあるからこそ、従業員との信頼関係も築けるのでしょうか。

しょうがい者雇用に関しては多種多様な課題があるものの、一つ一つ丁寧に対応することが必要なのだと改めて感じる取材となりました。